

# デイリー・ジーザス・ニュース #215

## イエスの宣教 イエスは信仰と従順について教える ルカ17.5-10

5使徒たちは主に言った。 「私たちの信仰を増してください！」

6 彼は答えた。 「もし、からし種ほどの信仰があれば、この桑の木に、『お前は根こそぎ海に植えられよ』と命じるでしょう。そうすれば、木はあなたの言うことを聞くでしょう。

7 「あなたがたのうちのだれかに、耕作か羊の世話をしている僕がいたとします。その僕が畠から帰ってきたとき、彼は『さあ、来て、座って食事をなさい』と言うでしょうか。8 むしろ彼はこう言うのではないでしょうか。『さあ、夕食の準備をしなさい。私が食べたり飲んだりしている間、あなたは身支度をして私に仕えなさい。その後で、あなたは食べたり飲んだりしてかまいません』。9 僕が命じられたことをしたからといって、主人は僕を尊敬するでしょうか。

10だから、あなたがたも、命じられたことをすべて終えたら、『私たちは価値のない僕です。なすべき仕事を終えただけです』と言いなさい。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =<sup>MT</sup> 、マーク=<sup>M</sup> 、ルカ =<sup>L</sup> 、ヨハネ =<sup>J</sup> 、使徒行伝 =<sup>A</sup> 。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

### コンテキストダイジェスト

位置	ペレアのどこか
タイムライン	1月または2月（36ヶ月目と37ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教
	A.ペレア全土におけるイエスの奉仕者たち
タイトル	14. イエスは信仰と従順について教える

### コメント：

イエスが、お金、離婚、他人を怒らせないこと、そして私たちを傷つけた人に無制限の許しを与える必要性について、前の教えの中で語ったことを聞いた後、使徒たちがイエスのもとに来て、「主よ、私たちの信仰を増してください！」と懇願したのは不思議なことではありません。

## デイリー・ジーザス・ニュース #215

罪深い人にとって、神の思いと道に調和して生きることは決して容易ではありません。実際、私たち自身の力では不可能です。しかし、神の恵みによって従順は常に可能になるという朗報があります。これが、今日の朗読でイエスが弟子たちに改めて教えられた教訓です。

使徒たちが信仰を増し加えるよう叫んだとき、イエスは彼らに答えて、彼らが必要としているのはより大きな信仰ではなく、より完全な従順であると告げられました。信仰と従順はコインの表裏一体であり、筋肉と鞄帯が一体となってシームレスに機能するように、互いに支え合いながら共存しています。しかし、私たちは自分の信仰を直接的に、意志でコントロールすることはできません。信仰を増したり減らしたりすることもできないのです。

対照的に、私たちは従順の量と質の両方を直接コントロールすることができます。イエスはこの箇所で、従順に対する私たちの態度こそが信仰の効力を決定づけるものであることを示しています。これはすべての弟子にとって非常に重要な教訓です。

イエスは、からし粒ほどの小さな信仰の力について何度も語されました。（イエスの同様の言葉については、DJN #133をご覧ください。）イエスの主張は、信仰が私たちを神の無限の力に結びつけるということです。神にとって不可能なことは何もありません。ですから、神が私たちに力を与えてくださると信じるなら、神の御心のいかなる側面も、私たちにとって不可能なことなどありません。その力は神に宿っています。信仰は私たちを神の力に結びつけるものであり、それは目に見えない無線インターネット接続がスマートフォンを地球上で最も強力なコンピューターに繋ぐようなものです。

信仰はそれ自体では無価値ですが、私たちを神の力に結びつける力があるため、従順さを可能にするために不可欠です。興味深いことに、イエスはここで、桑の木に話しかけ、それを動かすよう命じることができるほどのからし粒ほどの信仰について語られましたが、これは仮説的な例であり、弟子たちに実際にそれができるとは考えていなかったのです。一方、イエスは以前、ガリラヤから退去する際に同じ重要な言葉を述べられました（DJN #133）。そこでは、祈りを通して山を動かすことが現実的な可能性として語られました。イエスが一貫して主張したのは、神の力は常に十分すぎるほどであるということです。私たちの問題は、祈りの中で求め、神の答えを信じるかどうかにかかっています。

したがって、イエスはこの教えの大部分を、従順の優先性に捧げました。10節で結論づけているように、私たちの従順が完全に達成されたとき、私たちは神から特別な称賛を受けるに値しなくなります。なぜなら、私たちはただ、命じられ、力を与えられたことをしただけだからです。

神への奉仕において、義務の要求を超えて尽くすことができる人は誰もいません。神に従うとき、私たちは何も特別なことをしたわけではありません。ただ、なすべきことをしただけです。100%の従順が現状です。天国の天使たちに聞いてみてください。彼らは既に永遠の歳月を神に従い続け、その完璧な従順さにおいて、義務の要求を超えて何かをしたことはありません。

従順に対するこの態度は、その価値を軽視しているように思えるかもしれません。しかし、それはイエスの意図ではありませんでした。イエスは父なる神の従順な奴隸としての役割を誇りとされました。私たちもそうあるべきです。宇宙の王に仕える資格を得ることは、神の愛が私たちに与えてくださる最高の特権です。私たちは誰一人として、神と何らかの関わりを持つに値しません。私たちはただ地獄で永遠に生きるに値す

## デイリー・ジーザス・ニュース #215

るのです。私たちは神の御前に高められ、神のあらゆる呼びかけに応じるために遣わされているのです。神の奴隸として生きること以上に大きな栄誉はありません。

しかし、イエスが、完全な服従を最低限の、当然の期待、つまりイエスとの関係における現状と捉えたことは、私たちの信仰に大きな影響を与えます。なぜ完全な服従がイエスの最低限の期待なのでしょうか？イエスの偉大さと力は、それ以上のものを要求するからです。

「天と地のすべての権威はわたしに与えられている」と言わされた方に仕えています。イエスが命令を下すと、宇宙のすべての力が私たちの中で働き、イエスの言葉を成就しようと待ち構えています。ですから、信仰の鍵は、私たちが言ったり行ったりすることが神の御心であり、それゆえに私たちの従順を完遂するためには不可欠であるという確信にあるのです。

目の前にそびえる桑の木や山が神の御心に反して存在していると分かっているなら、「動け！」と命じれば、必ず動くと確信できます。神の力がそれを実現するのです。それは従順の問題です。一方、もし私たちが自分の都合や楽しみのために木が動くことを望むだけなら、私たちの信仰は神の力と繋がっておらず、何も成し遂げられないことに気づくでしょう。

従順を必然的なものとみなすこの姿勢は、強い信仰を育みます。完全な従順は必ずやらなければならないと信じるのと同じように（譲れないもの）、私たちはまた、従順の完成を妨げるものはすべて神の力によって取り除かれ、主の戒めに従うために必要なあらゆる資源も神の力によって与えられると信じます。

従順を完遂することが必然であると信じるということは、神の意志が要求するときに山を動かすほどの信仰も持つことを意味します。

### 応用：

完全な従順は、何か特別な賞賛や承認を受けるに値するものではありませんが、真実は、物語とは異なり、イエスは実際に私たちの忠実さに報いてくださるということです。これは、イエスの言い表せないほどの慈悲と謙遜さです。私たちはイエスからの感謝や賞賛を受けるに値しませんが、それでもイエスは私たちにそれを与えてくださいます。なぜなら、イエスの愛は、私たちに勝利を与えるたびに、イエスが私たちと共に喜びを分かち合われるからです。

そうです、主の力の偉大さゆえに従順は避けられないのですが、同時に、主への私たちの愛の最も甘美な表現もあります。そして、主は私たちの従順に応じて、身を固め、宴の席で私たちに仕えてくださいます。なぜなら、主はそれほどまでに善良で、愛に満ち、慈悲深い方だからです。

あなたに対する神の意志のどのような特定の領域において、あなたは神に完全に従う力を与えてくださると信じているので、従順に対する態度を変える必要がありますか。

あなたの従順が完全になるためには、どんな木や山が動く必要があるでしょうか。そのために、あなたはどうのように祈りますか。